

飯舘村の被災体験を未来につなぐ

大地震に対応して避難者を受け入れたのに次いで原発事故による全村避難を経験した飯舘村。この経験の中には、非常事態において実際に行動したからこそ分かったノウハウや課題、教訓などが存在しています。そしてそれらは、日頃の備えに生きるものです。

村は現在、当時の資料の集積や村民への聞き取りなどを、生涯学習課を中心に進めていて、記録や保存の方法を検討しています。今後、協力の呼びかけがある際には、ぜひ皆様のご協力をお願いします。



次々に届く物資を庁舎内で移動する職員。飲用水の全戸配付も実施。



災害対策本部では朝夕に全体ミーティングを行い情報を共有しました。



数多くの緊急車両が往来。写真はスポーツ公園に駐留した自衛隊の車両。



役場の会議室に置かれた災害対策本部。発電機を使い裸電球を点灯。

震災当時は産業振興課商工観光係の職員でした。大地震の時は庁舎内にいて、引き出しがバンと開き、私はとっさにパソコンを押さえました。夫も相双地区の自治体職員で、揺れの直後に二度電話で話したきり、携帯電話が通じなくなりました。私は村営住宅に住んでいましたが、宿直用の布団を借りて役場の休憩室に泊まりました。

沿岸部からの避難者も受け入れ避難所となったいちばん館の調



健康福祉課福祉係の佐藤こずえ係長。震災当初に避難所となった、いちばん館に勤務します。

理室で、ひたすらおにぎりを握りました。婦人会、女性消防隊、給食センターの皆さんが、自分の家のこともありながら協力してくださいました。自宅から海苔や梅干しなどを持ち寄り、米を炊き続け、1日1200個を握りました。村内の商店からの食材の寄付もありました。避難者の入れ替わりが激しく、数時間で人数が大きく変わる日もありました。

避難所が縮小されてからは、広報車での呼びかけや、水の配付などにも携わり、係では事業者さんの移転に関する聞き取りを国の担当者と一緒に行いました。

全てが初めてのことで無我夢中でした。やらなくてはという気持ちで動いていました。村の職員は全員が現場に残っていて、皆同じだ、皆で頑張ろうという意識が強かったと思います。毎日朝夕に全体会があり、若い人も手を挙げて、言うべきことを言っていました。

計画を練っても訓練をしていても、現場ではそれ以外のことが起



多くの村民の協力を得て、いちばん館の調理室でおにぎりを握り、避難者に提供しました。

こつてきます。私達の経験を、後輩に伝えていかなければと思います。当時のメモが残る手帳などは震災の資料として村に提出しました。

復興が進み少しずつ以前のようになつてきたと感じる一方で、10数年経っても終わらないこともあつて両極端な感覚があります。現在の部署の福祉の分野にも、まだまだ必要なものがあると思います。できることから取り組んで、村の皆さんとつながりながら歩んでいきたいと思っています。

ライフラインを支えて



県道原町川俣線でガソリンスタンドを経営する北原商店の北原博史さんと妻の文恵さん(草野)。

揺れが来てすぐ停電になって、給油中の計量器が止まりました。手動に切り替えましたが、男性が息を切らして手で回してやっと5Lが出せる状態。これでは駄目だと翌日、電動ドライバーの口先を加工して計量器に取り付け、10L程は販売ができるようになりました。その後停電は解消しましたが、今度はガソリンが尽きてきて、できるだけ多くの人に販売できるように、量に制限を設けました。

原発事故の影響でタンクロー

リー車が来なくなり、危険物取扱者の資格を持つうちと荒木屋さんが交替で、村のガソリン調達に同行することになりました。郡山まで行つてタンクローリー車を借り、宇都宮市でガソリンを積んで、村に運びました。

自衛隊の車両や、救急車、パトカーなどが店の前の県道を行き交っていました。家庭用のプロパンガスも扱っていますし、沿岸からの避難者もいて、仕事は続けなければならぬと思っていました。朝の4時頃から車が列をつくり、消防団の皆さんが公民館の駐車場を使つて車列を誘導してくれました。その後、村が給油用のカードを村民に配つて給油対象が限定され、そのまま全村避難まで毎日店を開けました。

当時は村の依頼を受け浄水場の見回りも行っていました。避難先を探すこともままならず、子ども達の授業参観にも行けない日々を過ごしました。従業員にも迷惑をかけたと思います。

避難が進み人影が消えてからは、曜日と時間を限つて給油を行いました。近くに消防分署があり、公民館の駐車場には警察車両が集まつていて、責任を感じて仕事をしていました。燃料会社も運転手を探し、線量計を持たせて配送の体制を取ってくれました。

居住人口が減少し、どこまで頑張つていけるか見通せない部分はありますが、今は戻った皆さんの生活や復興事業に携わる企業を支えていこうと思っています。



3月15日、開店前に並んだ車列。「1台1,000円分」「1台10L」などの制限を設けて給油しました。